

2012年度 楢葉町 コミュニティ調査結果報告

2012年12月12日
福島工業高等専門学校
東北都市社会学研究会
松本行真

※本研究は科学研究費 若手(B)『被災自治体における防災・防犯コミュニティ構築とローカルナレッジ形成に関する研究』(課題番号24710176)による成果の一部である。

1	調査概要	2
2	震災前のコミュニティ活動	5
3	震災後の生活	8
4	震災後のコミュニティ活動	12
5	帰町・集団移転への意向	20
6	現状の生活上の課題	26
7	避難生活上の問題解決に向けて	29

1. 調査概要

(1) 調査方法と回収結果

調査方法と回収結果

- 調査対象：楡葉町民全3,700世帯の世帯主または準ずる者
- 調査期間：2012年6月～8月
- 調査方法：郵送による質問紙調査
- 有効回収数(回収率) 477s(12.9%)
- 回収内訳
 - 性別：男性64.6%、女性33.8%、不明1.7%
 - 年代別：20代1.9%、30代8.0%、40代10.7%、50代25.6%
60代24.5%、70代以上26.2%、不明3.1%
 - 現居住地別
 - 宮里仮設4.0%、高久第5仮設0.6%、高久第6仮設0.2%、高久第8仮設4.0%、高久第9仮設5.0%、高久第10仮設5.5%、飯野仮設0.6%、上荒川仮設5.2%、四倉細谷仮設1.0%、内郷白水仮設0.6%、作町1丁目仮設2.1%、常磐銭田仮設0.6%、下船尾宿舎-、常磐宿舎0.6%、いわき市37.1%、福島県内13.0%、福島県外18.9%、その他0.4%、不明0.4%

調査の目的と課題

調査目的

楡葉町民のコミュニティ活動の現状と課題、情報発信・共有実態を明らかにする

調査課題

- 被災前の人づきあい、情報発信・共有、自治会活動はどうだったか
- どのような経緯で避難したのか。避難時の人づきあいはどうだったか
- 現在の人づきあい、情報発信・共有、自治会活動はどうであるか
- 今後の情報発信・共有に何を望んでいるか
- 帰町・集団移転への意向はどうなっているか

数表の見方

全体との有意差を示す記号は、
▲▼：1%、△▽：5%、↑↓：10%、∴∴∴：20% とする

1. 調査概要

(2) 調査結果の概要

※下線部は調査結果からの解釈

1. 震災前のコミュニティ活動

震災前の自治会加入率は9割を超えていた。自治会の問題点では「住民の高齢化」「医療・福祉施設の不足」が挙げられる。活動や行事では「美化活動」が主なものであった。また、「消防団」「老人クラブ」が多く組織化されていた。

震災への対応はあまり話し合われてはおらず、話し相手は「自分の家族・親戚」が多い結果となっている。「避難の方法、場所」「非常持ち出し品」などの話が多く行われていた。

2. 震災後の生活

現在の居住地については「いわき市」が4割近くで最も多くなっている。貸借形態の6割以上が「国・自治体による借上げ」であり、そのうちの多くが「集合住宅」に住んでいる。

人づきあいは「親兄弟等の親戚」「友人・知人」が多い。話す内容については「一時帰宅」「町内等の震災状況」「自分や家族の健康」「補償問題」が5割以上となっている。

よく使う情報媒体は、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」が9割近く、ほかに「友人・知人の話」が6割である。

仮設・雇用」以外はネットによる情報収集が比較的多い結果となっており、これを利用し、家族、親戚といった個人的な付き合いから自治会等の地域的なつきあいを深くしていくことができるのではないだろうか。

3. 震災後のコミュニティ活動

現在住んでいる地区の自治会に関しては「ある」が半数以下である。加入有無については「加入している」が6割を超えている。活動に関しては「地域の美化活動」が最も多い。行事に関しては「自治会等の総会」が唯一4割近い一方で、その他の組織化されているものに関してはいずれも2割未満である。

生活上の問題点は「家族や親戚が離れて居住」「友人・知人が離れて居住」「名前を知らない人の増加」が上位3つである。

情報伝達の内容は「国・自治体発行の広報誌」が約5割、「震災復興等」「補償」に関する情報が4割に達していない。方法は「自治会以外発行のチラシ等」が約5割、「回覧板」「自治会等の会報」が4割に満たない。

「仮設・雇用」では新たなコミュニティのため問題が多い。着目したのは仮設入居者間でもコミュニティ活動に関しての温度差があることである。行政としては温度差の解消のためになんらかの対処をしなければならぬと考えられる。

「いわき市」「県内その他」の借上げ入居者に関しては自治会加入率が他の二つに比べ低い結果となっている。地域に溶け込むことが難しいというよりは、一時的な避難場所と考えて溶け込もうとしてはいないのではないだろうか。これらの住民には借上げ住民同士でのコミュニティ形成が有効なのではないだろうか。先ほどのネット利用も活用してつながりを作っていくことができると考えられる。

4. 帰町・集団移転への意向

帰町に向けて「話し合っている」と答えた人が約半数である。話し相手では「家族」が9割以上で、「親戚」も6割弱、次いで「震災前の近所の人」も5割に近い。

話し合いの内容については「生活環境」「帰町・集団移転の時期」「帰町・集団移転先」「町全体の復興」が多い。

帰町場所によって「檜葉町」が半数近くであり、次いで「いわき市」が4割弱である。理由としては「生まれ育った場所である」「震災前に住んでいた場所に近い」「家族等が近いところに住んでいる」が上位3つでいずれも3割未満である。

希望する移転単位は「家族」が5割以上、「震災前の自治会における班・隣組」「震災前の自治会」というのは3割未満である。

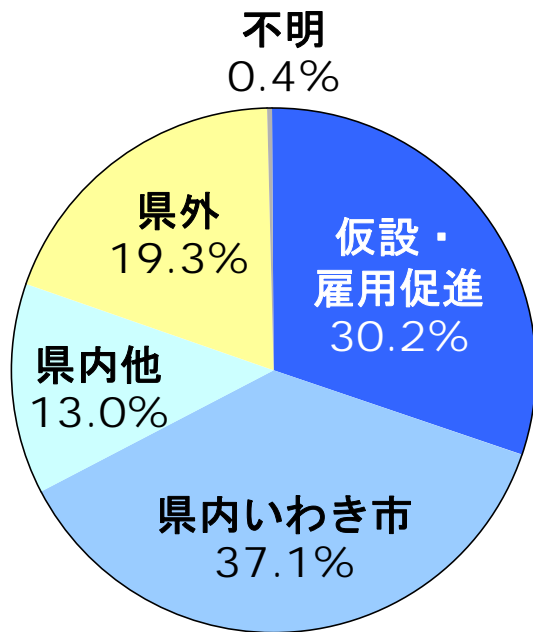
1. 調査概要

(3) 分析の考え方

- ・本報告の分析を大きく二つに分ける。一つは震災前、もう一つは震災後～現在である。
- ・震災前については檜葉町全体について、震災後については現在の4つの居住地セグメントにより分析を行い、各居住地による特徴を見いだすことにする。
- ・4つのセグメントであるが、「県内いわき市」が37.1%と最も多く、次いで「仮設・雇用促進」が30.2%、「県外」は19.3%、「県内他」は13.0%となっている。

単位：%

調査協力者の現居住地 N=477



Base for % : 477s

※集計により小数点以下の合計が異なることもある

現居住地の基本属性

■ 性別

	調査数	男性	女性	不明
合計	477	64.6	33.8	1.7
仮設住宅・雇用促進住宅	144	68.1	30.6	1.4
県内いわき市	177	63.3	35.0	1.7
県内その他	62	∴ 72.6	27.4	-
県外	92	∴ 56.5	∴ 40.2	3.3

■ 年代

	調査数	20代	30代	40代	50代
合計	477	1.9	8.0	10.7	25.6
仮設住宅・雇用促進住宅	144	2.1	▽ 3.5	8.3	23.6
県内いわき市	177	2.8	↑ 11.9	11.9	26.6
県内その他	62	-	6.5	8.1	∴ 33.9
県外	92	1.1	8.7	14.1	21.7

	調査数	60代	70代以上	不明
合計	477	24.5	26.2	3.1
仮設住宅・雇用促進住宅	144	↑ 30.6	28.5	3.5
県内いわき市	177	22.6	∴ 21.5	2.8
県内その他	62	27.4	24.2	-
県外	92	∴ 17.4	31.5	5.4

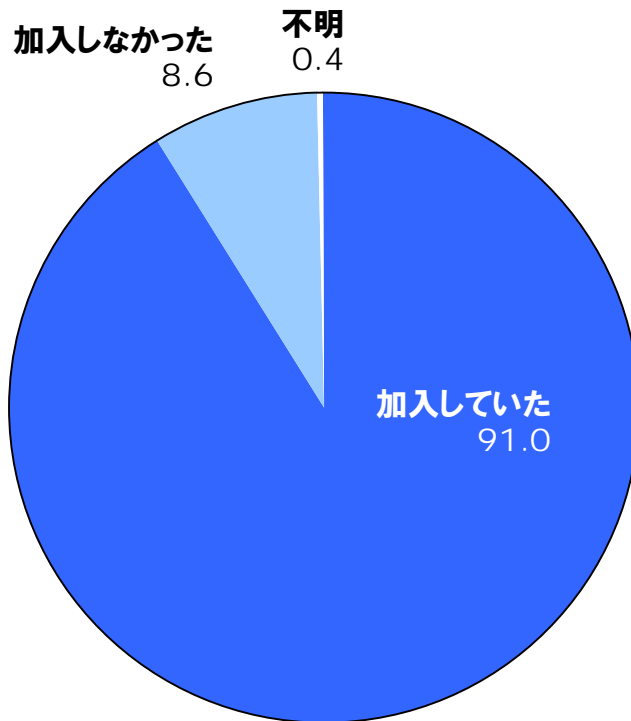
2. 震災前のコミュニティ活動

(1) 加入率と地域生活上の問題点

- ・はじめに震災前のコミュニティ活動について概観する。
- ・震災前の加入率を確認すると、9割を超えていた。
- ・地域での生活上の問題点をみると、「住民の高齢化」(39.4)、「医療・福祉施設の不足」(37.1)が4割近くに達していた。

単位：%

加入率 N=477



地域での生活上の問題点 N=477



2. 震災前のコミュニティ活動

(2) 活動・行事・組織形成

- ・次に行政区内における諸活動・組織形成状況について確認する。
- ・活動で多いのは「地域の清掃美化」(82.8)と約8割に達しているものの、「防犯・防火パトロール」(42.6)や「集会所等の施設管理」(40.3)は4割程度、それ以外は3割にも達していなかった。行事は「神社祭礼」・「自治会の総会」(70.2)、次いで「盆踊り・夏祭り」(63.7)が多く実施された。
- ・組織化されているものをみると、「消防団」(67.3)、「老人クラブ」(63.3)のみが6割以上であった。

単位: %

活動 N=477

行事 N=477

組織 N=477

地域の清掃美化

82.8

神社祭礼

70.2

消防団(分団)

67.3

町内会・自治会の総会

70.2

老人クラブ

63.3

盆踊り・夏祭り

63.7

子供会育成会

51.4

防犯・防火パトロール等

42.6

冠婚葬祭

43.2

防犯協会

49.9

集会所等の施設管理

40.3

運動会等の体育活動

38.6

氏子会・檀家組織

44.4

資源・廃品回収

26.0

新年会・忘年会

38.6

婦人会

42.8

公園・広場等の管理

21.8

食事会・飲み会

37.1

民生・児童委員会

35.4

高齢者・障がい者福祉

19.9

防災訓練

30.0

社会福祉協議会

31.4

青少年教育・育成

18.2

研修会・講習会

12.2

体育協会

31.2

学童保育等の支援

15.9

ラジオ体操

8.0

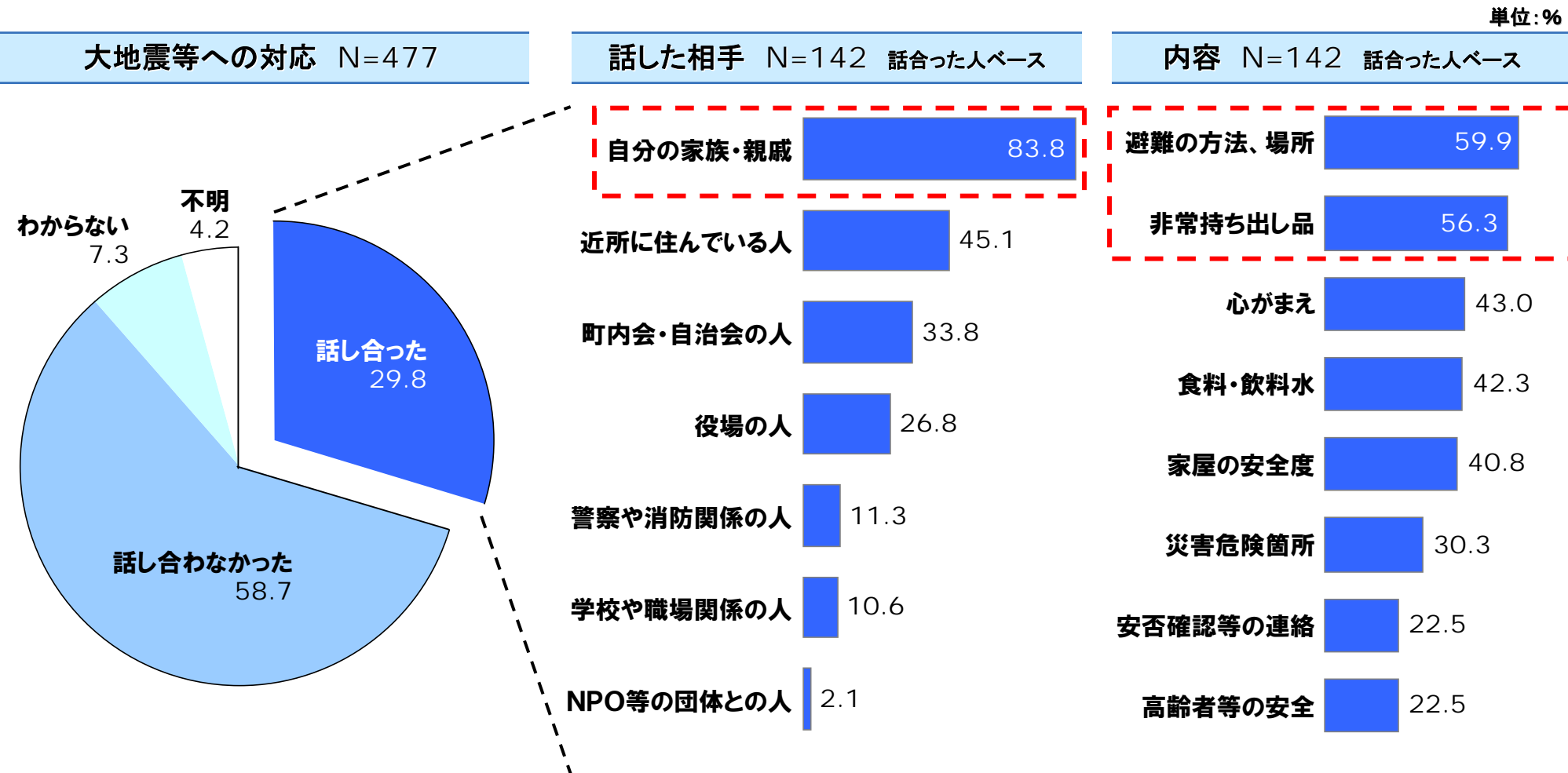
青年団

22.0

2. 震災前のコミュニティ活動

(3) 大地震等への事前対応

- ・震災への地域の事前対応を確認すると、「話し合った」のは全体の約3割である。
- ・話し合った人について、話相手をみると「自分の家族・親戚」(83.8)が8割以上であり、「近所」(45.1)や「自治会」(33.8)は半数にも達せず、地域での対応というよりは身内で話す程度にとどまっていたようだ。
- ・話の内容であるが、「避難の方法・場所」(59.9)や「非常持ち出し品」(56.3)が多く、あくまでも個人・家族単位の内容である。



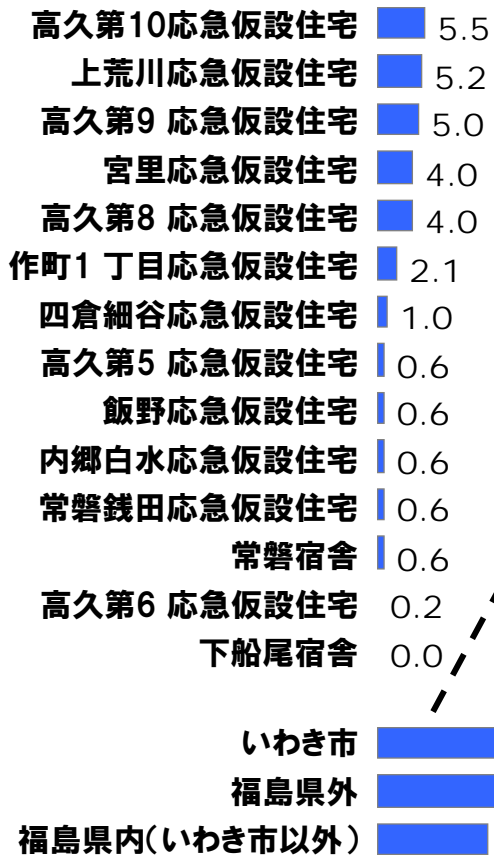
3. 震災後の生活

(1) 住まい・暮らし

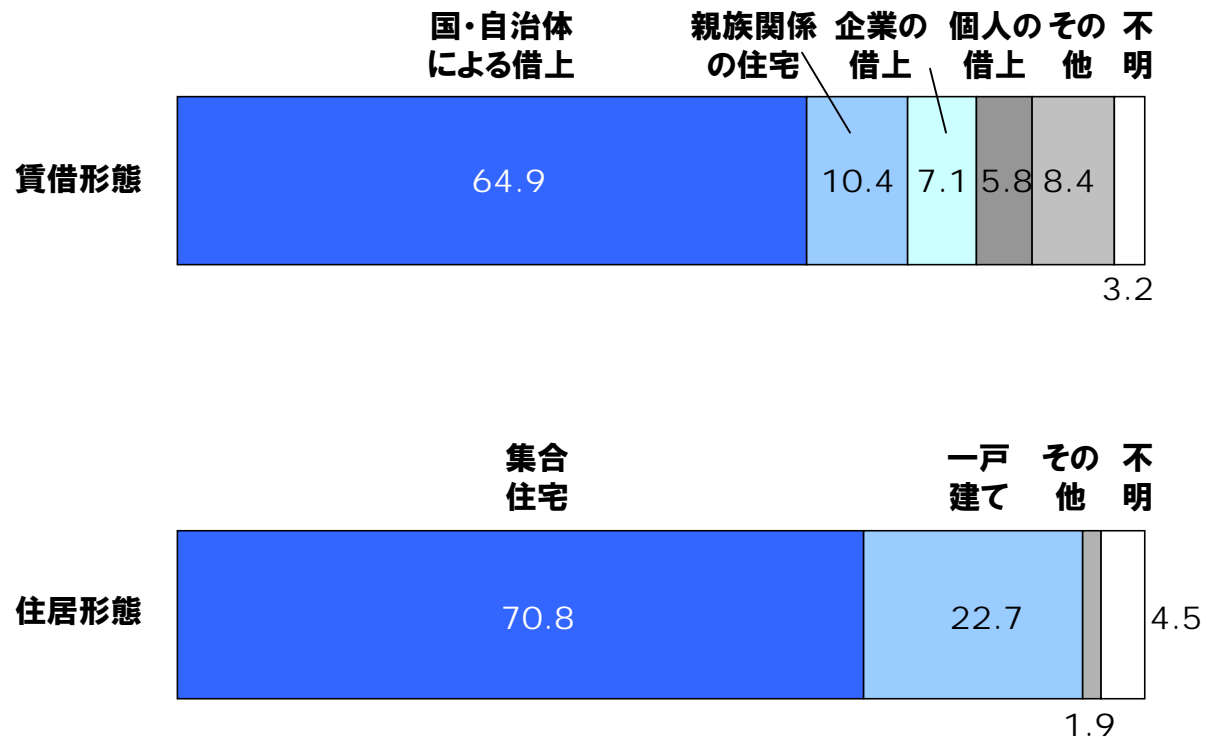
- ・次に震災後から現在に至るまでの生活状況について確認する。調査協力者ベースであるが現在の居住地をみると、「いわき市」(37.1)が4割近くにも達した。
- ・いわゆる「借り上げ生活者」の居住形態は「国・自治体による借り上げ」(64.9)が6割以上であり、その殆どが「集合住宅」(70.8)に住んでいることがわかる。

単位：%

現在の居住地 N=477



居住形態 N=154 借上等ベース



3. 震災後の生活

(2) ふだんの付き合い

- ・震災後の人づきあいであるが、「親兄弟等の親戚」(78.0)や「友人・知人」(75.5)が多く、「震災前の隣近所」(34.8)は4割にも満たず、狭い範囲での交際にどとまっていることがわかる。
- ・居住地域別でみると、「仮設・雇用」で「転居後に知り合った人」(72.2)、「震災前の隣近所の人」(48.6)、「避難所で知り合った人」(37.5)と交際範囲に幅がある一方で、「県内いわき市」では「親兄弟等の親戚」(84.2)や「友人・知人」(79.7)等と、その幅が狭いことがわかる。

単位: %

付き合いのある人 N=477



居住地域別 N=477

	調査数	親兄弟、従兄弟などの親戚	友人・知人	震災前に住んでいた隣近所の人たち	職場や取引先など仕事関係での付き合い	仮設住宅等への転居後に知り合った人たち	避難所で知り合った人たち
合計	477	78.0	75.5	34.8	34.2	33.3	19.5
仮設住宅・雇用促進住宅	144	74.3	77.8	▲ 48.6	▽ 25.0	▲ 72.2	▲ 37.5
県内いわき市	177	△ 84.2	∴ 79.7	37.3	▲ 45.2	▼ 15.3	▼ 10.7
県内その他	62	79.0	72.6	27.4	38.7	▼ 11.3	↓ 9.7
県外	92	72.8	↓ 67.4	▼ 14.1	↓ 25.0	▽ 22.8	15.2
	調査数	震災前に加入していた町内会・自治会の人たち	仮設住宅等への転居後に加入した町内会の人達	クラブ・サークル等の趣味や習い事の仲間	NPO等の団体の人たち	電子メールや掲示板等、インターネット	ひとつもない
合計	477	10.5	9.0	7.1	3.1	1.9	3.1
仮設住宅・雇用促進住宅	144	11.8	▲ 17.4	6.3	4.2	1.4	1.4
県内いわき市	177	12.4	▼ 2.8	6.2	1.7	1.7	2.8
県内その他	62	11.3	6.5	6.5	-	1.6	∴ 6.5
県外	92	↓ 4.3	9.8	∴ 10.9	↑ 6.5	3.3	4.3

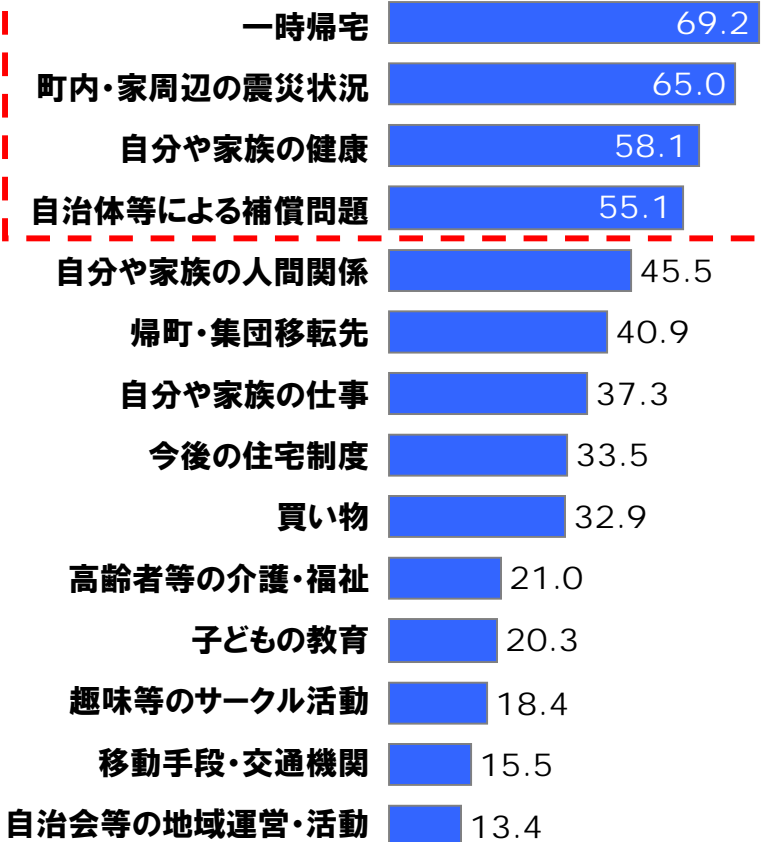
3. 震災後の生活

(3) 話す内容

- ・話す内容について確認すると、全体では「一時帰宅」(69.2)、「町内等の震災状況」(65.0)、「自分や家族の健康」(58.1)、「補償問題」(55.1)がいずれも5割以上である。
- ・居住地域別において「仮設・雇用」は「買い物」(38.9)、「県内いわき市」で「自分や家族の人間関係」(58.2)や「自分や家族の仕事」(44.1)等と自分たちの身の回りに関する話題が多い。一方で「県外」で特徴的なのは「サークル活動」(26.1)であり、つながりを維持させるために何らかのテーマ型・コミュニティに属していることがうかがえる。

単位: %

話す内容 N=477



居住地域別 N=477

	調査数	一時帰宅について	町内・家周辺の震災状況について	自分や家族の健康について	政府や都道府県等による補償問題について	自分や家族の人間関係について	帰町・集団移転先について	自分や家族の仕事について
合計	477	69.2	65.0	58.1	55.1	45.5	40.9	37.3
仮設住宅・雇用促進住宅	144	72.2	66.7	54.2	54.9	∴ 39.6	44.4	36.8
県内いわき市	177	68.9	65.5	59.3	56.5	▲ 58.2	44.1	↑ 44.1
県内その他	62	67.7	71.0	61.3	50.0	▽ 30.6	33.9	33.9
県外	92	67.4	58.7	60.9	57.6	41.3	34.8	↓ 28.3

	調査数	今後の住宅制度について	買い物について	高齢者・障がい者の介護・福祉について	子どもの教育について	趣味等のサークル活動について	移動手段・交通機関について	自治会・町内会等の地域運営・活動について
合計	477	33.5	32.9	21.0	20.3	18.4	15.5	13.4
仮設住宅・雇用促進住宅	144	∴ 27.8	∴ 38.9	23.6	17.4	16.0	13.2	13.9
県内いわき市	177	↑ 40.1	34.5	20.3	↑ 26.0	19.2	16.4	13.6
県内その他	62	↓ 22.6	29.0	19.4	∴ 12.9	∴ 11.3	14.5	11.3
県外	92	38.0	↓ 23.9	19.6	19.6	↑ 26.1	18.5	14.1

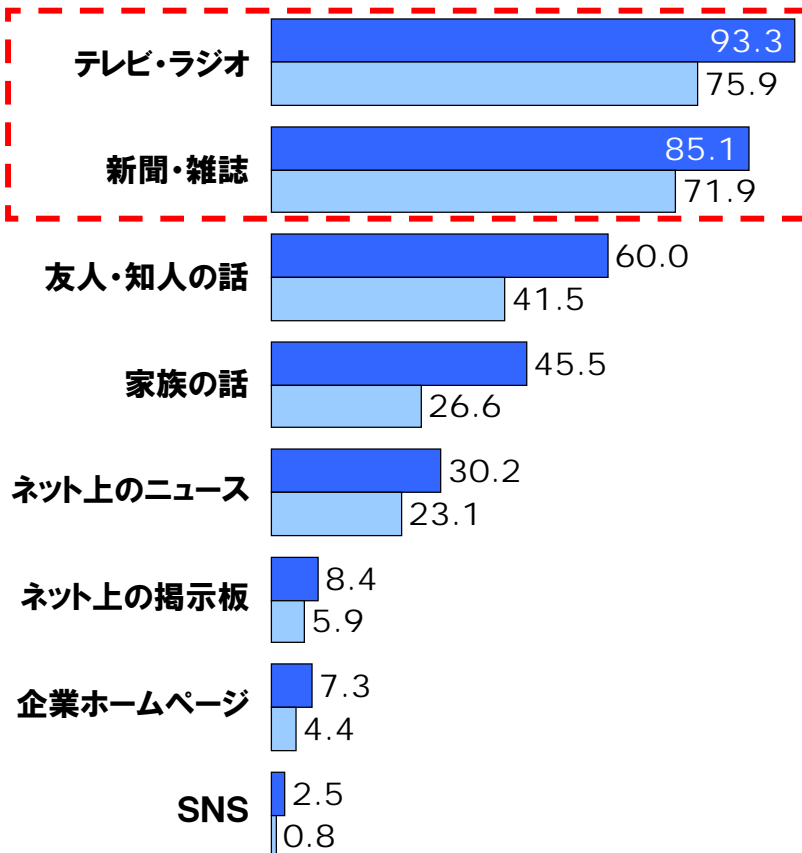
3. 震災後の生活

(4) 接触メディア

- ・次に震災後に使う情報媒体(メディア)をみていくと、「テレビ・ラジオ」(93.3)や「新聞・雑誌」(85.1)というマスメディアの他に、「友人・知人」(60.0)といった口コミが多い。震災関係の情報源としてあげられているのも上記と同様にマスメディア+口コミといった傾向にある。
- ・居住地域別では、「県内いわき市」で「家族の話」、「県外」で「ネット上のニュース」を震災関係の情報も含めてよく使っている。

単位: %

よく使う情報源 N=477 上段:全般 下段:震災



居住地域別 N=477

■ 全般的によく使う情報源

	調査数	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌	友人・知人の話	家族の話	ネット上のニュース	ネット上の掲示板	企業HP	SNS
合計	477	93.3	85.1	60.0	45.5	30.2	8.4	7.3	2.5
仮設住宅・雇用促進住宅	144	93.8	86.8	59.7	▽ 35.4	▼ 19.4	5.6	∴ 4.2	2.8
県内いわき市	177	92.7	84.2	63.8	▲ 55.9	∴ 35.0	7.9	9.0	1.7
県内その他	62	△ 100.0	88.7	59.7	50.0	30.6	∴ 12.9	11.3	1.6
県外	92	90.2	82.6	∴ 53.3	∴ 38.0	↑ 38.0	10.9	6.5	4.3

■ 震災関係でよく使う情報源

	調査数	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌	友人・知人の話	家族の話	ネット上のニュース	ネット上の掲示板	企業HP	SNS
合計	477	75.9	71.9	41.5	26.6	23.1	5.9	4.4	0.8
仮設住宅・雇用促進住宅	144	76.4	74.3	38.9	↓ 20.1	▽ 14.6	4.9	∴ 2.1	0.7
県内いわき市	177	73.4	68.4	45.2	▲ 37.3	25.4	5.1	↑ 7.3	0.6
県内その他	62	△ 87.1	79.0	37.1	24.2	24.2	9.7	6.5	-
県外	92	72.8	70.7	41.3	▽ 17.4	↑ 31.5	6.5	∴ 1.1	∴ 2.2

4. 震災後のコミュニティ活動

(1) 自治会加入有無

- ・ここからは震災後のコミュニティ活動について確認する。現在住んでいる地区に自治会が「ある」と答えた人は全体の5割未満であり、「仮設・雇用」や「県外」でやや多い傾向にある。一方で、「県内いわき市」や「県内その他」では「知らない」の割合が高かった。
- ・加入有無については、加入者は全体の6割に達し、「仮設・雇用」では9割近くになっているものの、「いわき市」や「その他」においては未加入が5割前後と、全体平均に比べても明らかに高い。

単位：%

自治会の有無 N=477

ある	ない	わからない	不明
46.8	21.0	26.0	6.3

自治会加入の有無 N=233 自治会有ベース

加入している	加入していない	不明
64.6	31.8	3.6

	調査数	ある	ない	知らない	不明
合計	477	46.8	21.0	26.0	6.3
仮設住宅・雇用促進住宅	144	∴ 53.5	▲ 31.3	▼ 13.2	▽ 2.1
県内いわき市	177	▽ 38.4	22.0	∴ 31.1	8.5
県内その他	62	41.9	14.5	△ 38.7	4.8
県外	92	↑ 56.5	▼ 6.5	28.3	8.7

	調査数	加入している	加入していない	不明
合計	223	64.6	31.8	3.6
仮設住宅・雇用促進住宅	77	▲ 88.3	▼ 6.5	5.2
県内いわき市	68	▼ 42.6	▲ 54.4	2.9
県内その他	26	▽ 46.2	∴ 46.2	7.7
県外	52	67.3	32.7	-

4. 震災後のコミュニティ活動

(2) 活動

- ・地域で実施している活動について確認すると、全体では「地域の清掃美化」(56.0)が6割近いものの、「レクリエーション」(29.7)や「資源・廃品回収」(28.8)が3割に近いものの、その他については2割以下である。
- ・居住地域別では「仮設・雇用」で「レクリエーション」(38.5)や「各種説明会」(32.0)があるなかで、「県外」では「地域の清掃美化」(67.2)、「資源・廃品回収」(46.6)、「レクリエーション」(37.9)等、既存の自治会・町内会がある分、活動が多いようである。

単位: %

実施している活動 N=323



居住地域別 N=323 自治会有無認知者ベース

	調査数	地域の清掃美化	親睦・レクリエーション	資源・廃品回収	各種説明会・勉強会	集会所等施設管理	交通安全対策等
合計	323	56.0	29.7	28.8	21.1	20.4	19.8
仮設住宅・雇用促進住宅	122	58.2	△ 38.5	26.2	▲ 32.0	22.1	∴ 14.8
県内いわき市	107	▽ 43.9	▼ 15.9	▽ 18.7	▼ 7.5	↓ 14.0	15.9
県内その他	35	65.7	25.7	37.1	20.0	20.0	25.7
県外	58	↑ 67.2	∴ 37.9	▲ 46.6	22.4	↑ 29.3	▲ 34.5
	調査数	高齢者・障がい者福祉	街灯等の設備等	行政への陳情	学童等保育の支援	青少年教育・育成	ひとつもない
合計	323	16.7	11.1	10.2	9.0	7.7	7.4
仮設住宅・雇用促進住宅	122	20.5	▽ 4.9	13.1	6.6	↓ 3.3	8.2
県内いわき市	107	∴ 11.2	7.5	↓ 4.7	7.5	4.7	10.3
県内その他	35	11.4	17.1	8.6	↑ 17.1	∴ 14.3	2.9
県外	58	20.7	▲ 27.6	∴ 15.5	12.1	▲ 19.0	3.4

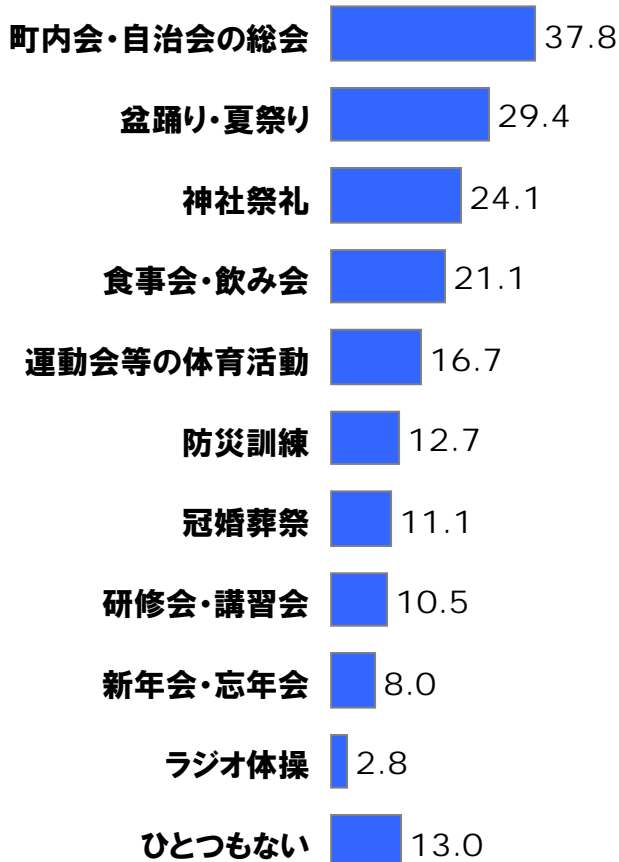
4. 震災後のコミュニティ活動

(3) 行事

- ・実施している行事についてみると、「自治会等の総会」(37.8)が4割に近いだけで、他は3割未満である。
- ・居住地域別では「仮設・雇用」で「食事会・飲み会」(32.0)や「研修会・講習会」(17.2)が、「県内その他」では「神社祭礼」(42.9)や「体育活動」(37.1)が全体よりもやや多いなかで、「県外」では「総会」(56.9)、「盆踊り」(48.3)、「体育活動」「防災訓練」(25.9)等と、既存のものがあるだけに行事の種類も多い。

単位: %

実施している行事 N=323



居住地域別 N=323 自治会有無認知者ベース

	調査数	町内会・自治会の総会	盆踊り・夏祭り	神社祭礼	食事会・飲み会	運動会等の体育活動	防災訓練
合計	323	37.8	29.4	24.1	21.1	16.7	12.7
仮設住宅・雇用促進住宅	122	36.9	↓ 22.1	▽ 14.8	▲ 32.0	▽ 9.8	14.8
県内いわき市	107	▽ 26.2	25.2	25.2	▼ 7.5	13.1	▼ 3.7
県内その他	35	45.7	37.1	▲ 42.9	14.3	▲ 37.1	11.4
県外	58	▲ 56.9	▲ 48.3	31.0	27.6	↑ 25.9	▲ 25.9
	調査数	冠婚葬祭	研修会・講習会	新年会・忘年会	ラジオ体操	ひとつもない	
合計	323	11.1	10.5	8.0	2.8	13.0	
仮設住宅・雇用促進住宅	122	12.3	△ 17.2	8.2	∴ 0.8	∴ 17.2	
県内いわき市	107	▽ 4.7	▽ 3.7	∴ 4.7	3.7	15.0	
県内その他	35	▲ 25.7	∴ 2.9	8.6	2.9	∴ 5.7	
県外	58	12.1	12.1	∴ 13.8	5.2	↓ 5.2	

4. 震災後のコミュニティ活動

(4) 組織

- ・ 地区内で組織化されているものをみると、「消防団」(22.0)、「老人クラブ」(20.7)、「子供会育成会」(20.4)が上位3組織であるが、いずれも2割程度である。
- ・ 居住地域別では、これまで確認してきた「活動」や「行事」と同様に、「県外」において組織化されているものが多い。

単位: %

形成している組織 N=323



居住地域別 N=323 自治会有無認知者ベース

	調査数	消防団(分団)	老人クラブ	子供会育成会	防犯協会	社会福祉協議会	民生・児童委員会
合計	323	22.0	20.7	20.4	19.5	19.5	17.6
仮設住宅・雇用促進住宅	122	21.3	21.3	▽ 12.3	17.2	20.5	18.9
県内いわき市	107	19.6	∴ 15.0	24.3	16.8	▽ 11.2	▽ 9.3
県内その他	35	∴ 31.4	∴ 31.4	25.7	22.9	20.0	22.9
県外	58	22.4	24.1	∴ 27.6	∴ 27.6	△ 32.8	△ 27.6

	調査数	婦人会	氏子会・檀家組織	体育協会	青年団	少年補導委員会	ひとつもない
合計	323	13.0	12.1	11.8	7.1	6.2	19.2
仮設住宅・雇用促進住宅	122	10.7	12.3	12.3	4.9	∴ 3.3	▲ 28.7
県内いわき市	107	11.2	10.3	▽ 5.6	6.5	5.6	15.9
県内その他	35	20.0	∴ 20.0	17.1	5.7	8.6	11.4
県外	58	17.2	10.3	↑ 19.0	△ 13.8	↑ 12.1	↓ 10.3

4. 震災後のコミュニティ活動

(5) 生活上の問題点

- ・震災後に住まう地域における生活上の問題について確認すると、「家族や親戚が離れて居住」(18.9)、「友人・知人が離れて居住」(17.4)という「散住」が上位にあり、また異なった環境に住んでいることから「名前を知らない人の増加」(12.8)が3番目になっている。
- ・しかしながら、全体での数値ではいずれも2割未満であり、調査時点においてはさほど問題として顕在化に至っていないように考えられる。

単位: %

生活上の問題点 N=477



4. 震災後のコミュニティ活動

(5) 生活上の問題点

- ・居住地域別では、「仮設・雇用」で様々な問題が(全体の平均より)多くあらわれている。
- ・一方で「いわき市」、「その他」、「県外」のいずれも問題として特徴的に高い項目はほぼないところをみると、「仮設・雇用」に特有な現象が生じていることがうかがえる。

単位: %

居住地域別 N=477

	調査数	家族や親戚が離れて居住	友人・知人が離れて居住	名前を知らない人の増加	ゴミ処理の問題	居住地区における放射能への不安	住民の高齢化	他地区との交流が少ない	買い物施設の不足	移動や交通の問題	ひとり暮らしの高齢者への対応	高齢者や単身者などの孤立化	病院等医療・福祉施設の不足
合計	477	18.9	17.4	12.8	9.6	9.4	8.8	8.4	8.2	8.2	7.1	6.9	6.3
仮設住宅・雇用促進住宅	144	▲ 29.2	▲ 26.4	▲ 23.6	△ 16.0	△ 15.3	▲ 18.1	▲ 14.6	∴ 11.1	10.4	▲ 13.2	↑ 10.4	6.9
県内いわき市	177	▽ 13.0	∴ 13.0	10.2	8.5	7.9	▽ 4.5	7.3	↓ 4.5	9.0	↓ 3.4	∴ 4.0	6.8
県内その他	62	14.5	11.3	∴ 6.5	6.5	11.3	8.1	4.8	△ 16.1	4.8	9.7	4.8	8.1
県外	92	16.3	16.3	▽ 4.3	▽ 3.3	▽ 2.2	▽ 2.2	↓ 3.3	5.4	5.4	∴ 3.3	8.7	3.3
	調査数	生活費等の経済的な問題	相談相手の不足・不在	ルールを守らない住民の存在	一部のものだけが参加	行事への住民の参加の少なさ	住民間のトラブル	世代間のズレ	地域・地区のまとまりのなさ	異なった自然環境への対応	とりまとめ役不在	治安・少年非行・風紀の悪化	声の大きい人の意見が尊重される
合計	477	5.9	5.7	5.0	5.0	4.4	4.0	4.0	3.8	3.4	3.4	2.7	2.7
仮設住宅・雇用促進住宅	144	6.9	∴ 8.3	▲ 10.4	▲ 13.9	↑ 7.6	▲ 8.3	△ 7.6	▲ 11.8	2.8	▲ 7.6	2.1	▲ 6.9
県内いわき市	177	5.6	4.0	4.5	↓ 2.3	4.5	2.8	2.8	▽ 0.6	↓ 1.1	1.7	3.4	1.7
県内その他	62	8.1	3.2	-	-	-	1.6	3.2	-	▲ 9.7	3.2	-	-
県外	92	3.3	6.5	↓ 1.1	-	2.2	∴ 1.1	∴ 1.1	-	4.3	-	4.3	-
	調査数	問題解決のためのノウハウ不足	体育施設等の不足	役員のなり手不足	教育施設の不足	以前から居住の住民とのトラブル	文化交流施設の不足・老朽化	行政とのトラブル	活動が多すぎて負担である	周辺住民によるいやがらせ	幼児虐待等の子育て上の問題	その他	困っていることはない
合計	477	2.5	2.1	2.1	1.9	1.7	1.0	1.0	0.8	0.6	0.2	9.9	12.2
仮設住宅・雇用促進住宅	144	▲ 6.9	↑ 4.2	3.5	∴ 3.5	2.8	△ 2.8	△ 2.8	∴ 2.1	△ 2.1	-	▽ 3.5	9.0
県内いわき市	177	↓ 0.6	2.3	1.7	1.1	1.1	0.6	0.6	0.6	-	-	9.6	13.6
県内その他	62	-	-	1.6	1.6	-	-	-	-	-	△ 1.6	12.9	11.3
県外	92	1.1	-	1.1	1.1	2.2	-	-	-	-	-	△ 17.4	15.2

4. 震災後のコミュニティ活動

(6) 情報伝達の内容

- ・次に情報伝達の方法について確認する。全体では「国・自治体発行の広報誌」(49.5)が約5割であるのに対して、「震災復興等」(34.8)や「補償」(25.4)が4割にも達しておらず、避難生活者の情報不足がうかがえる。
- ・居住地域別でみると、先の生活上の問題点と同様に「仮設・雇用」に住んでいる人たちに様々な種類の情報不足が生じていることがわかり、「借り上げ」とは異なった情報伝達の方法を検討する必要がある。

単位: %

情報伝達の内容 N=477



居住地域別 N=477

	調査数	国や都道府県が発行する広報誌の内容	震災復興等、まちづくり全般に関する情報	補償に関する情報	防災・防犯に関する情報	セールなどの近隣の買い物情報
合計	477	49.5	34.8	25.4	21.8	19.1
仮設住宅・雇用促進住宅	144	△ 59.7	▲ 54.2	▲ 46.5	△ 30.6	▲ 31.9
県内いわき市	177	▼ 39.0	▼ 23.7	▼ 14.7	▼ 10.7	↓ 13.6
県内その他	62	48.4	27.4	21.0	25.8	∴ 11.3
県外	92	54.3	30.4	▽ 16.3	27.2	14.1

	調査数	役員会、例会、総会に関する情報	婦人会、老人会などに関する情報	その他	情報発信はなかった
合計	477	10.9	9.9	6.9	10.5
仮設住宅・雇用促進住宅	144	9.7	11.1	5.6	▼ 0.7
県内いわき市	177	8.5	7.9	7.9	▲ 20.9
県内その他	62	14.5	11.3	6.5	8.1
県外	92	∴ 15.2	10.9	7.6	7.6

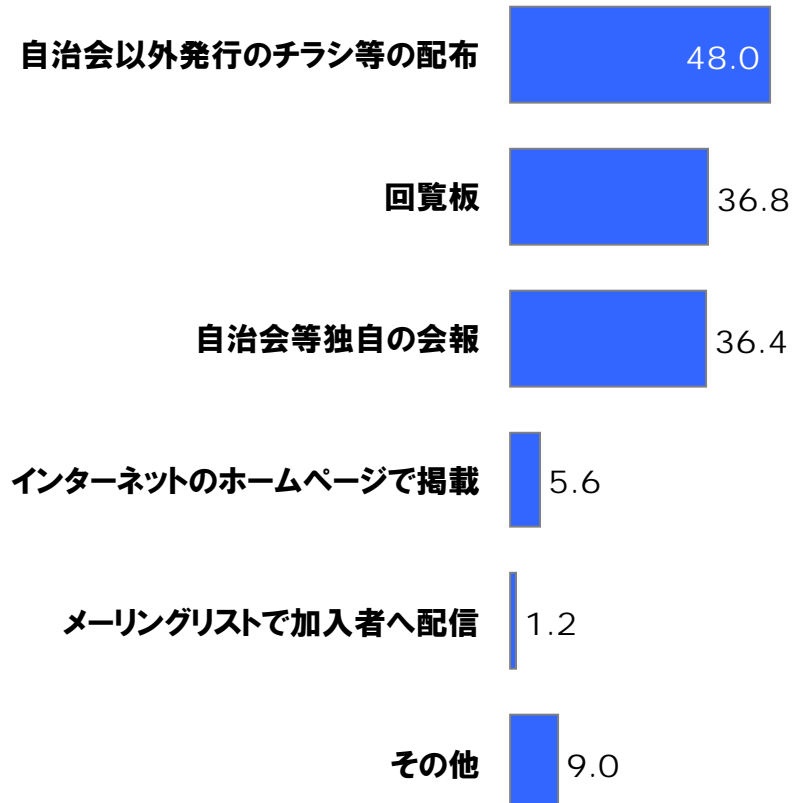
4. 震災後のコミュニティ活動

(7) 情報伝達の方法

- ・続いて情報伝達の方法であるが、「自治会以外発行のチラシ等」(48.0)が半数近いものの、「回覧板」(36.8)や「自治会等の会報」(36.4)が4割にも満たない。
- ・(6)の結果と併せて居住地域別でみると、「仮設・雇用」では「自治会以外発行のチラシ等」(66.4)が多い結果となっているが、チラシに掲載される内容には満足していないことがうかがえ、「仮設・雇用」に対する情報伝達の方法についての再検討が要されるであろう。

単位：%

情報伝達の方法 N=321



居住地域別 N=321 情報伝達有ベース

	調査数	自治会等以外が発行するチラシ・パンフレットの配布	回覧板	町内会・自治会独自の会報	インターネットのホームページで掲載	メーリングリストで加入者へ配信	その他
合計	321	48.0	36.8	36.4	5.6	1.2	9.0
仮設住宅・雇用促進住宅	119	▲ 66.4	∴ 30.3	39.5	4.2	0.8	7.6
県内いわき市	90	▽ 35.6	∴ 43.3	33.3	7.8	1.1	6.7
県内その他	41	46.3	34.1	29.3	4.9	-	9.8
県外	70	▽ 32.9	41.4	38.6	5.7	2.9	∴ 14.3

5. 帰町・集団移転への意向

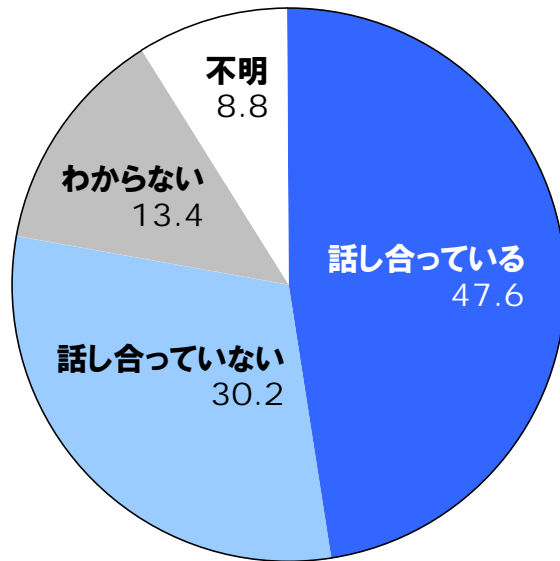
(1) 話し合いの有無

- ・ 今後の帰町・集団移転について、避難生活者はどう考えているのだろうか。全体ベースでみると、「話し合っている」は47.6%と全体の半数近くに達している一方で、「話し合っていない」も3割存在している。
- ・ 居住地域別では「県外」に「話し合っていない」(41.3)が多く、元居住地から離れて住んでいる人ほど今後について考えたくないということなのだろうか。

単位：%

話し合いの有無 N=477

居住地域別 N=477



	調査数	話し合ってきた	話し合っていない	わからない	不明
合計	477	47.6	30.2	13.4	8.8
仮設住宅・雇用促進住宅	144	49.3	30.6	13.2	6.9
県内いわき市	177	52.0	▽ 22.0	15.8	10.2
県内その他	62	43.5	37.1	11.3	8.1
県外	92	∴ 40.2	△ 41.3	9.8	8.7

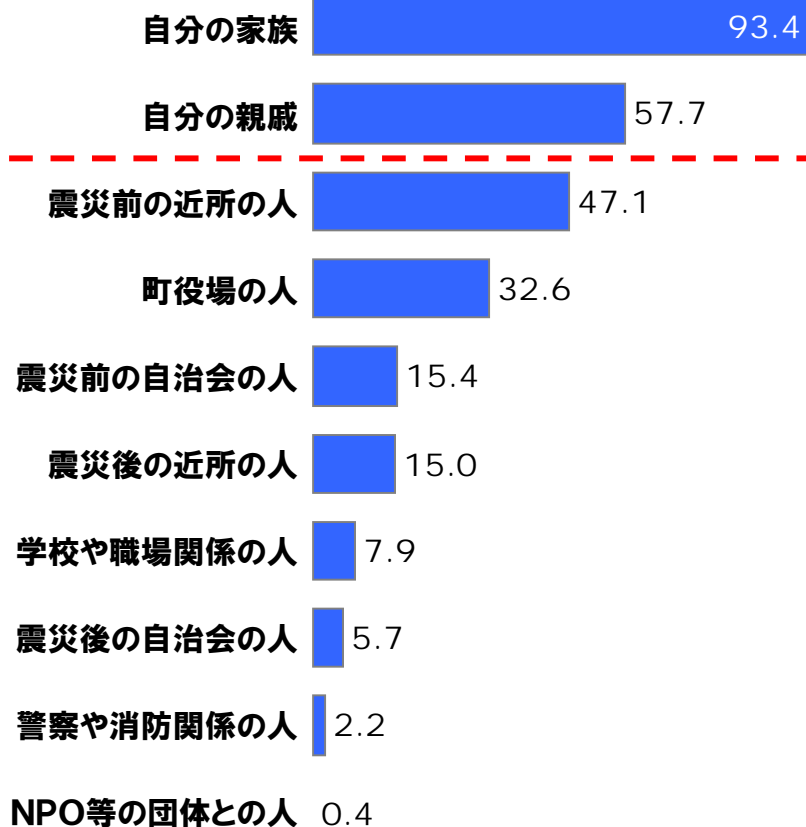
5. 帰町・集団移転への意向

(2) 話し相手

- ・(1)で「話し合っている」人たちの話し相手を確認する。「家族」(93.4)が9割に達しており、次いで「親戚」(57.7)である。また、「震災前の近所の人」(47.1)も半数近くであり、今後については身内+近隣の住民同士で話し合っているようだ。
- ・居住地域別でみると、「仮設・雇用」で「震災後に住んでいる近所」(28.2)が全体に比べて多く、割合としては3割程度であるが震災後に形成された(檜葉町民内での)新たな関係で話し合っているようだ。一方で「その他」では「町役場」(48.1)、「震災前に住んでいた自治会の人」(33.3)であり、借り上げで周囲に話し合える町民がいないことがうかがえる。

単位: %

話し相手 N=227 話し合い有ベース



居住地域別 N=227 話し合い有ベース

	調査数	自分の家族	自分の親戚	震災前に住んでいた近所の人	町役場の人	震災前に住んでいた町内会・自治会の人
合計	227	93.4	57.7	47.1	32.6	15.4
仮設住宅・雇用促進住宅	71	93.0	62.0	53.5	35.2	14.1
県内いわき市	92	95.7	60.9	53.3	33.7	15.2
県内その他	27	88.9	51.9	∴ 33.3	↑ 48.1	△ 33.3
県外	37	91.9	∴ 45.9	▽ 29.7	▽ 13.5	↓ 5.4

	調査数	震災後に住んでいる近所の人	学校や職場関係の人	震災後に住んでいる町内会・自治会の人	警察や消防関係の人	NPO等の団体との人
合計	227	15.0	7.9	5.7	2.2	0.4
仮設住宅・雇用促進住宅	71	▲ 28.2	∴ 2.8	8.5	1.4	1.4
県内いわき市	92	↓ 8.7	↑ 13.0	4.3	∴ 4.3	-
県内その他	27	14.8	7.4	7.4	-	-
県外	37	∴ 5.4	5.4	2.7	-	-

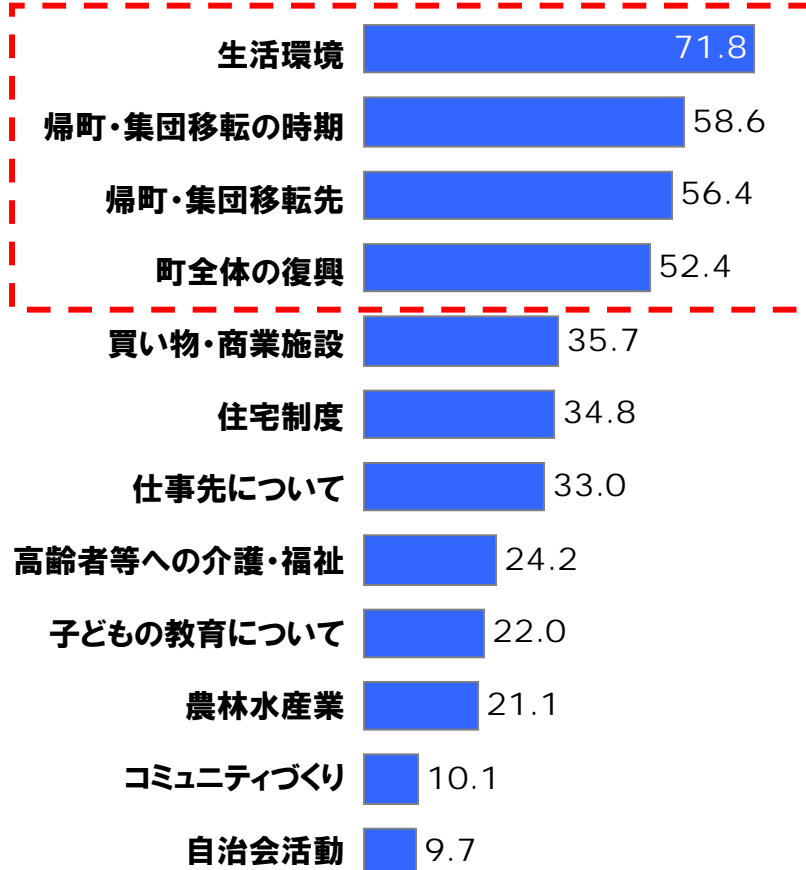
5. 帰町・集団移転への意向

(3) 話し合いの内容

- ・(2)と同様に話し合っている内容であるが、全体では「生活環境」(71.8)、「帰町・集団移転の時期」(58.6)、「帰町・集団移転先」(56.4)、「町全体の復興」(52.4)が多い。
- ・居住地域別で確認すると、「仮設・雇用」で「帰町・集団移転先」(64.8)、「商業施設」(43.7)、「介護・福祉」(36.6)という生活面での具体的な問題を話しているのに対して、「その他」では「町全体の復興」(70.4)、「仕事先」(48.1)、「コミュニティづくり」(25.9)と、やや理念的な議論になっている感があるといえる。

単位：%

話し合いの内容 N=227 話し合い有ベース



居住地域別 N=227 話し合い有ベース

	調査数	生活環境	帰町・集団移転の時期	帰町・集団移転先	町全体の復興	買い物・商業施設	住宅制度
合計	227	71.8	58.6	56.4	52.4	35.7	34.8
仮設住宅・雇用促進住宅	71	76.1	63.4	64.8	53.5	43.7	33.8
県内いわき市	92	69.6	57.6	52.2	50.0	32.6	40.2
県内その他	27	74.1	44.4	51.9	70.4	44.4	25.9
県外	37	67.6	62.2	54.1	43.2	21.6	29.7

	調査数	仕事先について	高齢者等への介護・福祉	子どもの教育について	農林水産業	コミュニティづくり	自治会活動
合計	227	33.0	24.2	22.0	21.1	10.1	9.7
仮設住宅・雇用促進住宅	71	33.8	36.6	19.7	25.4	8.5	11.3
県内いわき市	92	26.1	16.3	25.0	20.7	7.6	7.6
県内その他	27	48.1	18.5	11.1	25.9	25.9	18.5
県外	37	37.8	24.3	27.0	10.8	8.1	5.4

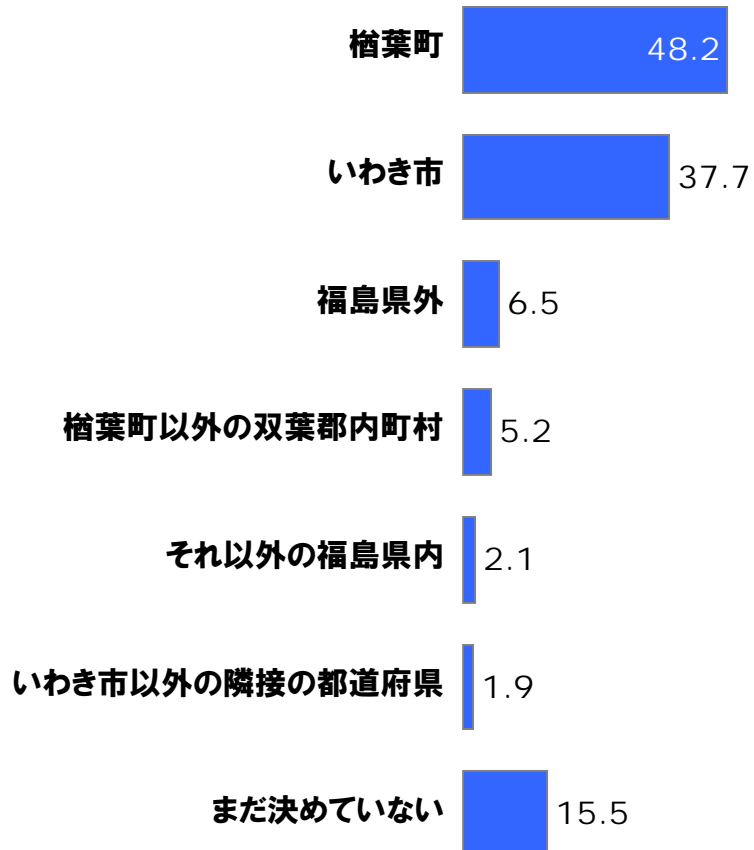
5. 帰町・集団移転への意向

(4) 希望する移転先

- ・避難生活者の希望する移転先であるが、一番多いのはやはり「楡葉町」(48.2)であり、次いで「いわき市」(37.7)である。
- ・ただし、居住地域別の特徴をみると様相が変わる。具体的には「仮設・雇用」が「楡葉町」(58.3)、「県内いわき市」で「いわき市」(45.8)であるのに対して、「県内その他」は「楡葉町以外の双葉郡内」(9.7)、「県外」は「福島県外」「まだ決めていない」(20.7)という結果であり、一様に全体ベースで移転への施策を検討するのは難しいことがわかる。

単位：%

希望する移転先 N=477



居住地域別 N=477

	調査数	楡葉町	いわき市	福島県外	楡葉町以外の双葉郡内町村
合計	477	48.2	37.7	6.5	5.2
仮設住宅・雇用促進住宅	144	△ 58.3	35.4	↓ 2.8	3.5
県内いわき市	177	48.6	△ 45.8	▽ 2.3	4.5
県内その他	62	43.5	35.5	6.5	∴ 9.7
県外	92	▽ 35.9	↓ 28.3	▲ 20.7	6.5

	調査数	それ以外の福島県内	いわき市以外の隣接の都道府県	まだ決めていない
合計	477	2.1	1.9	15.5
仮設住宅・雇用促進住宅	144	2.1	-	13.2
県内いわき市	177	1.7	1.7	14.1
県内その他	62	3.2	3.2	17.7
県外	92	2.2	↑ 4.3	∴ 20.7

5. 帰町・集団移転への意向

(5) 移転を希望する理由

- ・ 移転を希望する理由について確認する。
- ・ 全体では「生まれ育った場所である」(27.3)、「震災前に住んでいたところに近い」(25.8)、「家族等が近いところに住んでいる」(21.8)等と、檜葉町またはいわき市近隣へ移転を希望する理由となっている。

単位：%

移転を希望する理由 N=477



居住地域別 N=477

	調査数	生まれ育った場所である	震災前に住んでいたところに近い	家族等が近いところに住んでいる	友人等が近いところに住んでいる	生活の拠点になっている
合計	477	27.3	25.8	21.8	17.4	15.5
仮設住宅・雇用促進住宅	144	28.5	27.8	22.9	13.9	18.1
県内いわき市	177	27.7	25.4	24.3	18.6	14.7
県内その他	62	25.8	30.6	16.1	19.4	17.7
県外	92	26.1	20.7	19.6	19.6	12.0

	調査数	気候等の自然環境が似ている	周辺の住民に気兼ねしなくてよい	職場や学校が近い	商業施設が多い	既に住宅を購入している
合計	477	15.3	12.2	9.4	9.4	8.2
仮設住宅・雇用促進住宅	144	16.0	15.3	∴ 6.3	∴ 9.7	7.6
県内いわき市	177	16.4	11.3	▲ 15.3	∴ 12.4	9.0
県内その他	62	14.5	16.1	4.8	6.5	6.5
県外	92	13.0	↓ 6.5	6.5	∴ 5.4	8.7

5. 帰町・集団移転への意向

(6) 希望する移転単位

- ・ 今後の移転する単位についてみていくと、一番多いのは「家族」(52.2)であり、「震災前の自治会における班・隣組」(26.0)や「震災前の自治会」(20.5)といった地域単位は3割未満である。
- ・ 居住地域別では、「仮設・雇用」が「震災前の自治会」(26.4)や「震災後の自治会における班・隣組」(4.2)と、他のセグメントに比べて地域単位での移転を希望している人が相対的に多いようだ。

単位：%

希望する移転単位 N=477



居住地域別 N=477

	調査数	家族単位	震災前の町内会・自治会における班・隣組単位	震災前の町内会・自治会単位	個人単位
合計	477	52.2	26.0	20.5	20.1
仮設住宅・雇用促進住宅	144	49.3	27.8	↑ 26.4	↓ 14.6
県内いわき市	177	55.9	25.4	19.2	20.3
県内その他	62	54.8	24.2	∴ 12.9	∴ 27.4
県外	92	47.8	25.0	18.5	22.8

	調査数	家族・親族単位	震災後に結成された町内会・自治会における班・隣組単位	震災後に結成された町内会・自治会単位
合計	477	16.1	2.3	1.7
仮設住宅・雇用促進住宅	144	14.6	∴ 4.2	2.1
県内いわき市	177	16.9	2.3	1.1
県内その他	62	16.1	-	1.6
県外	92	16.3	-	2.2

6. 現状の生活上の課題

(1) 人づきあい

居住地域	人づきあい(p.8)	話す内容(p.9)	接触メディア(p.10)
応急仮設住宅 雇用促進住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮設等で知り合った」、「避難所で知り合った」、「仮設等で加入した自治会」 ・「震災前の隣近所」 <p>→「震災前」よりも「後」に知り合った人同士によるつきあいが多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「買い物」 <p>→日常生活に関する話題</p>	<p>－(特徴なし)</p>
いわき市	<ul style="list-style-type: none"> ・「親兄弟や親戚」、「友人・知人」 ・「仕事関係」 <p>→「地域」というよりは「個人的」なつきあいが多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分や家族の人間関係」、「自分や家族の仕事」 ・「今後の住宅制度」 ・「子どもの教育」 <p>→家族に関する話題が多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族」 ・「ネット上のニュース」 <p>→家族以外にネットによる情報収集が多い</p>
その他 福島県内	<p>－(特徴なし)</p> <p>→「個人的」なつきあいが多い</p>	<p>－(特徴なし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「テレビ・ラジオ」 ・「ネット上の掲示板」 <p>→既存メディアと新メディアを使い分けているようだ</p>
福島県外	<ul style="list-style-type: none"> ・「趣味や習い事の仲間」 ・「NPO等の団体」 <p>→「テーマ型」の人づきあいがある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「趣味等のサークル活動」 <p>→趣味に関する話題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ネット上のニュース」 <p>→ネットによる情報収集</p>

6. 現状の生活上の課題

(2) コミュニティ活動

居住地域	活動(p.12)	行事(p.13)	組織(p.14)
応急仮設住宅 雇用促進住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・「親睦」、「説明会」 <p>→主に高齢者を対象とした活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「食事会」 ・「研修会」 ・「ひとつもない」 <p>→「親睦」を主とした活動である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひとつもない」 <p>→いくつかの活動があるものの、組織化にまでは至らない</p>
いわき市	—(特徴なし)	—(特徴なし)	—(特徴なし)
その他 福島県内	<ul style="list-style-type: none"> ・「学童保育支援」、「青少年育成」 <p>→子育て世帯支援を視野に入れた活動がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「神社祭礼」、「冠婚葬祭」 ・「運動会等の体育活動」 <p>→「祭」系のイベントを実施している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「消防団」 ・「老人クラブ」 ・「氏子会・檀家組織」 <p>→主に年配者を中心とした既存枠組による組織</p>
福島県外	<ul style="list-style-type: none"> ・「清掃美化」、「資源回収」 ・「親睦」 ・「施設管理」、「街灯等の整備」 ・「青少年育成」、「交通安全対策」 <p>→子育て世帯支援をはじめとした多様な活動がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「総会」 ・「防災訓練」 ・「盆踊り等」、「新年会等」 ・「運動会等の体育活動」 <p>→既存の枠組でイベントを実施している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「子供会育成会」、「少年補導委員会」、「民生・児童委員会」、 ・「防犯協会」、「社会福祉協議会」、「体育協会」、「青年団」 <p>→既存枠組により組織化されているものが多い</p>

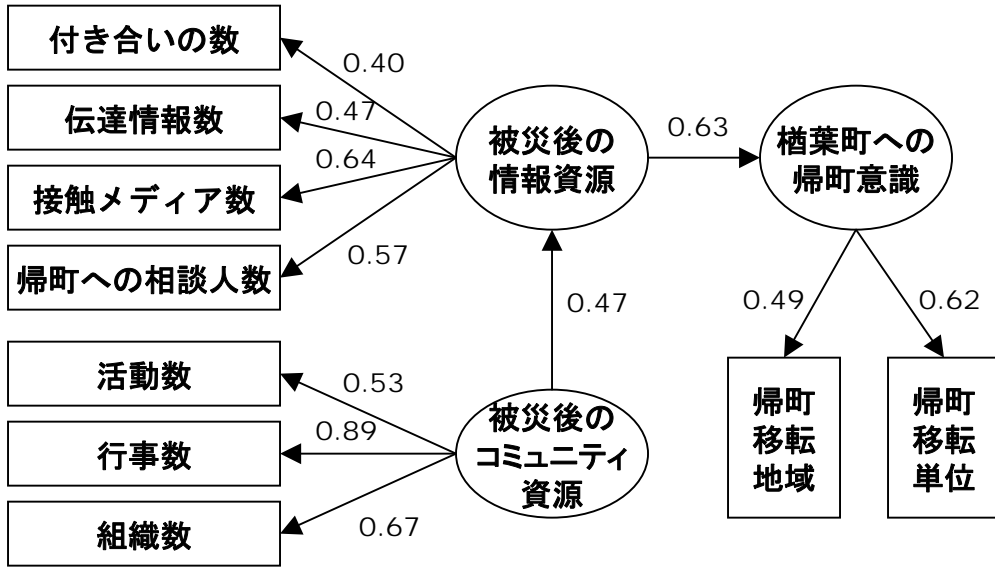
6. 現状の生活上の課題

(3) 生活上の諸問題

居住地域	生活上の問題点(p.15-16)	情報伝達の方法(p.18)
応急仮設住宅 雇用促進住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族等が離れて居住」、「友人・知人が離れて居住」 ・「名前を知らない人が増加」、「ルールを守らない住民」「住民の参加の少なさ」、「他地区との交流が少ない」 ・「住民の高齢化」、「高齢者・単身者の孤立化」、「独居高齢者への対応」 →新たなコミュニティを形成し活動を行っているので問題が多い。鍵語は「散住」、「高齢化」、「知らない人の存在」	<ul style="list-style-type: none"> ・「自治会以外発行のチラシ」 →「集住」により、チラシを用いた情報伝達が機能している
いわき市	ー(特徴なし)	<ul style="list-style-type: none"> ・「回覧板」 →地区の最低限の情報しか伝達されていない可能性がある
その他 福島県内	<ul style="list-style-type: none"> ・「異なった自然環境への対応」 ・「買い物施設の不足」 →周辺「環境」を主たる問題として認識している	ー(特徴なし)
福島県外	ー(特徴なし)	ー(特徴なし)

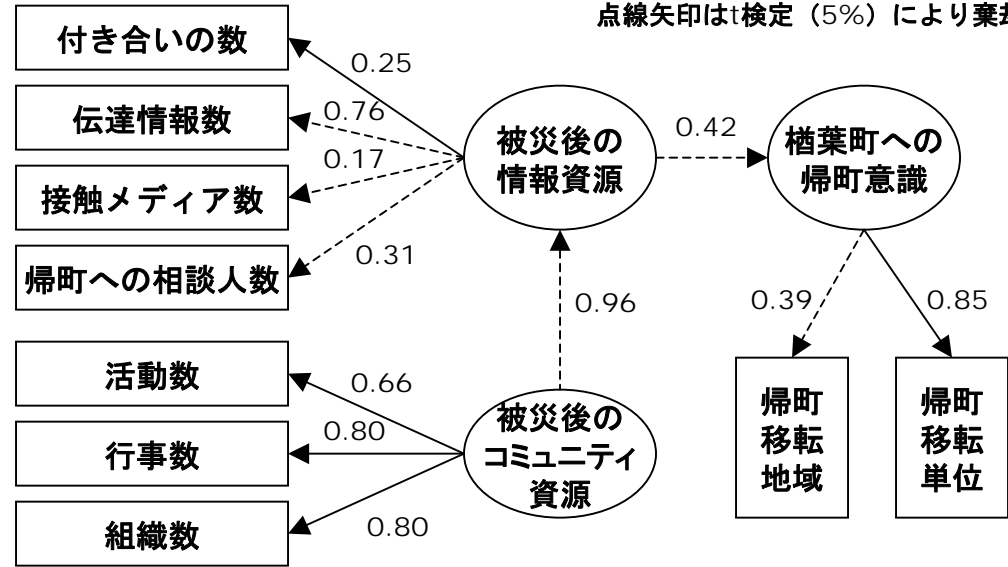
7. 避難生活上の問題解決に向けて

■ 仮設・雇用促進住宅

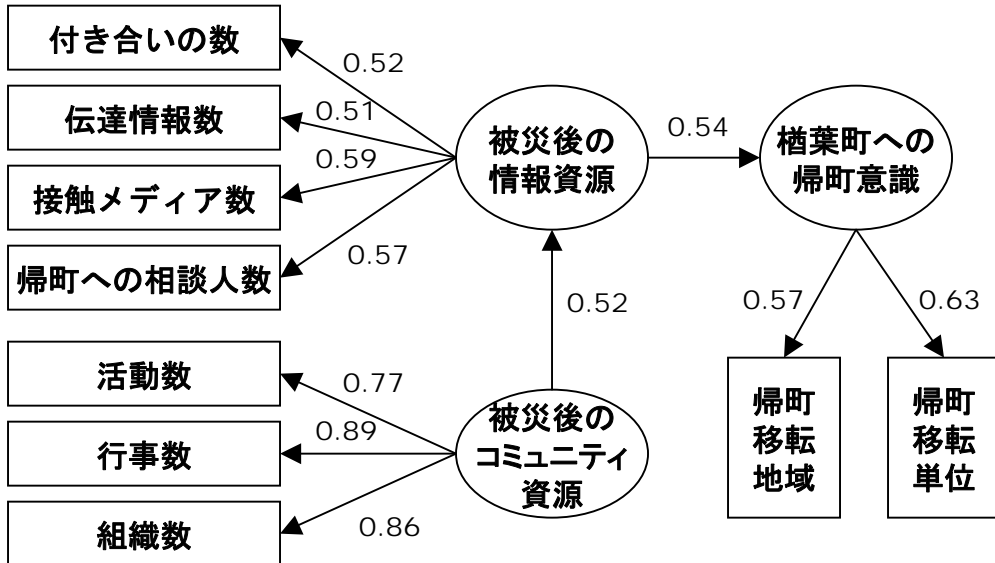


■ その他福島県内

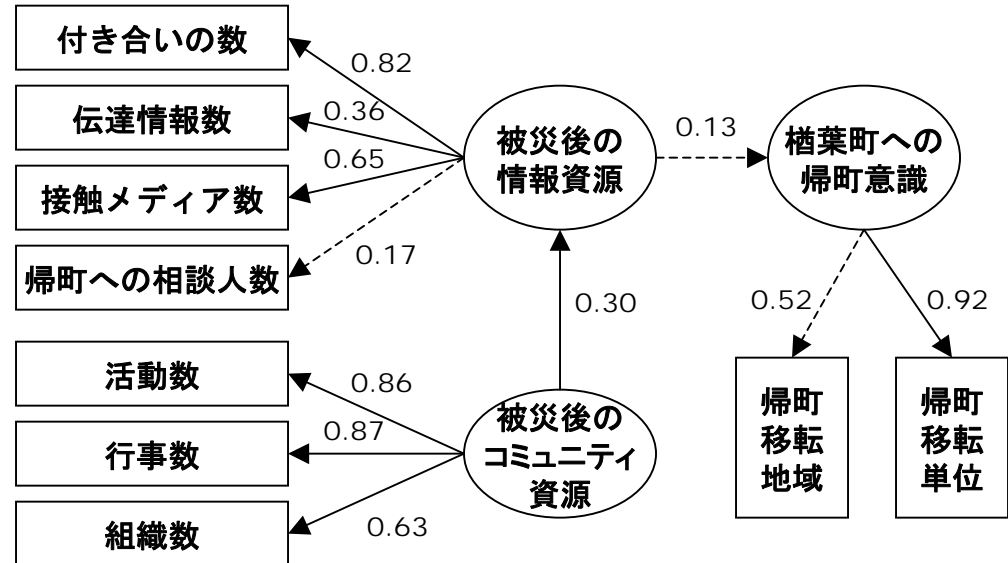
GFI=0.91、AGFI=0.83
CFI=0.87、RMSEA=0.05
点線矢印はt検定(5%)により棄却



■ いわき市内



■ 福島県外



7. 避難生活上の問題解決に向けて

居住地域	情報伝達・共有に向けた取り組み	コミュニティ形成に向けた取り組み
応急仮設住宅 雇用促進住宅	<ul style="list-style-type: none"> 仮設住民同士だけではなく、行政が借上げ住民との橋渡しとして、双方の交流を深めさせ町民一体となった情報共有を図る → 借上げ住宅同士のコミュニティを作り、それと仮設住宅住民のコミュニティが合同で行うようなイベントを企画(夏祭り、新年会等)して、両方のコミュニティに働きかける。 高齢者が多いこともあり、情報伝達・共有の仕組み・方法に工夫が必要 既存の会報やチラシの他に、テーマ(問題、悩み、趣味等)毎の会報・チラシ発行に向けた支援体制の構築 帰町・集団移転に関する積極的な情報伝達・共有が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 仮設住民間のコミュニティ活動に関する温度差を解消するためのなんらかの対処が求められている → 温度差は地区jの違いが影響している事例もある(高久第9仮設)。これを解消するためには強制的にでも住民同士の関わりを生み出すことが肝要である。自治会がない仮設住宅に関しては自治会を強制的にでも発足させ、積極的な行政の働きかけで住民の重い腰を上げる必要がある 住民同士の交流によるコミュニティ形成(自治会内でのテーマ型コミュニティ等の組織化)を支援することで情報伝達・共有を推進させる 仮設住宅・雇用促進住宅内の交流を推進し、孤立(高齢)者の減少を図る
いわき市	<ul style="list-style-type: none"> 個人的なつながりによる情報収集が多いために、より積極的な情報伝達・共有が可能になる仕組み構築が必要である 子育て世代が多いことから、学校や子育て相談等のテーマを絞った情報発信が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 楡葉町民同士による交流を「face to face」以外でも可能になるような仕組みを構築する 高齢者には元の行政区内や町内のつながりを、若年層には学校(同窓会)やサークルのようなテーマ型コミュニティをつくること等により、町への関心を低下させないようにする ネット、紙媒体両方を活用した借上げ住民同士のコミュニティを作り、定期的な集会などから借上げ住民同士のつながりを強化し地域への関心を維持すると共に情報共有の強化を図る → 「町と町民双方からの情報発信ができるタッチパネル端末活用」(楡葉町取り組み)とあったため、これに関しては実際に動き出す予定があるようである。重要なのは中身に関してであり、考えられるのは自治会ごとに情報を発信できる機能を作り、町全体だけではなく、行政区単位の狭い範囲の掲示板などを置くことによって、より身近な関わりを維持することができるのではないだろうか。 「もともとの町内会の住民とは連絡は取り合っているが話題がないためだんだんと疎遠になってきている」(インタビュー調査より)→これを解決するとともに、借上げ入居者の「生きがい形成」(楡葉町取り組み)のためにゲートボールやソフトボールなどのスポーツを通じたコミュニケーションを形成する機会を行政側でつくる必要がある
その他 福島県内	<ul style="list-style-type: none"> いわき市に比べて避難生活者の規模(とネットワーク)が小さいこと、町の現状を知る手だてが少ないために、町の現状をより積極的に発信する必要がある 震災前の行政区内での情報伝達・共有と交流を推し進める仕組み構築が求められる 	
福島県外	<ul style="list-style-type: none"> 遠方で生活している人が多いことから、紙媒体だけでなくタブレットPCを活用したインターネット上での多種多様な情報発信が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 帰町願望を持っている住民の地域への関心を維持するために借上げ住民同士のコミュニティに加入できるように同じく紙媒体やインターネットを使用し情報を直接送り続ける。また、県外住民からの情報発信もできるような仕組みのポータルサイトを構築する → いわき市、その他福島県内、の借上げ入居者と同様のタッチパネル端末が考えられる